

霧ヶ峰基金会報

2011年10・11月号(通算44号)

発行：特定非営利活動法人 霧ヶ峰基金

〒393-0024 長野県諏訪郡下諏訪町五官 6371 番地 3 ハイツルミエール A 棟 102号

TEL 090 9668 3380

e-mail kirigamine.kikin@gmail.com

URL <http://kirigamine-fund.jp>

ブログ 「霧ヶ峰のWA!」 <http://blog.canpan.info/kirigamine-wa/>



冬の訪れ

最低気温 - 7 まで下がった霧ヶ峰のとある日の朝。車山肩では前日に 2cm 程の積雪があったようでした。日陰にはなんと 8cm も有る霜柱、ハイカ が歩いて崩れた処を覗いて観たところでパチリ。霜柱は、なんと 2 段に重なっていました。先にできた霜柱がとける前に、また霜柱ができたのでしょう。霧ヶ峰にも、いよいよ厳しい冬がやってきました。

“ぶら霧ヶ峰”

近頃、古地図をもとに往時をしのびながら歩くことがテレビや雑誌等で取り上げられて、静かなブームになっています。

今回は諏訪地方で育ち、久々に帰省をされたお客様からのご依頼により、10月にご案内をいたしました。

パート1 八島ヶ原湿原編 *.....*.....*.....*.....*.....*



園地から八島ヶ池を眺めながら、八島ヶ原湿原の概況をお話ししてから歩き始めるのがオーソドックスなのですが、今回は文庫版『霧の子孫たち』の口絵にあった「つつじヶ丘」の位置も案内し、小説と現況のイメージを固めた所でスタートしました。

色も黄金色に変わりつつある湿原を眺めながら

パート2 強清水編 *.....*.....*.....*.....*.....*

途中、お昼をはさんで午後はグライダーの飛び立つ姿を見ながら、藤原咲平先生の記念碑を目指し散策。ちょうど頻りにグライダーが発進する時に立ち会うことができました。

日の出とともに成長し、午後の2時から3時頃にピークを迎える上昇気流を捕まえるべくグライダーを発進するのとツアーのスタートがうまく重なったようでした。

むすび *.....*.....*.....*.....*.....*

今回はお客様のご要望をおうかがいし、オーダーメイドで企画したツアーでしたが、現在の霧ヶ峰を紹介する要素を加えた所に、意外性がありよかったという感想を頂きました。

同時に、新しい切り口での霧ヶ峰を紹介も続けて

後述譚 *.....*.....*.....*.....*.....*

昼食は、強清水の「高原の店」さんと、諏訪のB級グルメ代表「みそ天井」を頂きました。

ツアー後のお客様から「みそ天井の天ぷらもさることながらご飯が実においしかった。きっと水がきれい、冷たいからでしょう。」とご感想がありました。私はいままで当たり前にはいただいていたので、驚きは大きかったです。しかし、炊き上げたご飯からも、霧ヶ峰の水の恵みを感じ取れる感覚は見習わねばならないと同時に、大切にしたいものです。

(小原宏文)

旧御射山神社、旧御射山遺跡を目指し散策を行いました。途中で見たマムシグサの赤い実がひと際鮮やかでした。

さて、旧御射山神社を参拝後、境内から御射山遺跡を眺めつつ、ビーナスラインのルート計画図を見ながら、現在とは異なるルートのビーナスライン計画とその影響を想像してみました。

お見せした計画図とは、実は古地図というほど古いものでなく、昭和44年に発表されたビーナスラインのルート変更図をわかりやすくしたものでしたが、現地に立って、当時の計画図を見ると、目の前の風景への影響を想像するには十分のようでした。

ツアーを終えると、お客様から「今後も素晴らしい自然、遺跡や今日のツアーでふれたような歴史を、エコツアーを通じて未来に伝えて欲しい」とエールを頂きました。

ここでは写真を交えて、今年、グライダーの滑走路で映画、テレビドラマの撮影が行われていたことをご紹介します。

撮影場所としての利用背景には、震災の影響もあるのが事実ですが、国内でも貴重な草原風景あることを申し上げ、同時に将来の新しい草原の利用例の可能性についてご説明いたしました。

欲しいという期待もいただいた「ぶら霧ヶ峰」でした。

今後、もう少し内容を練り上げ、もっと喜んでいただける形で催行したいと考えています。

モニタリング調査報告

9月のモニタリング調査は霧の中の調査でした。

これでモニタリング調査を通じて、季節の変化とともに、晴れ、曇り、雨、霧と一通り天候を制覇(?)。マツムシソウの花もまだ咲いていましたが、ヤマラッキョウの赤紫の花が印象的でした。

しかし、草むらをよく見るとリンドウの花もあり、調査時は、ちょうど「花のリレー」の終盤だったと



思います。お陰様で今年も例年どおりの「花のリレー」を体感することができました。

その中、非常に驚いたのは白いツクバトリブトを見つけたことです。発見場所はここでは差

し控えますが、来年も同じ場所で白い花をつけるのか、興味深いところです。

もうひとつの驚きは、旧牧草地を対象とした調査区のみ、調査中、非常に短時間ですが雨が降ったことです。少し離れた別の調査区では降雨の痕跡すらありませんでした。

これは推測ではありますが、この旧牧草地の上空だけは何らかの理由で、大気中の水分が霧ではなく、露となり、雨が降ったということです。

晴れた日の局地的な雨は、狐の嫁入りと言いますが、この現象は何というのでしょうか。ご存じの方がいましたら、ご一報いただければ有難いです。

自然とはというのは、繰り返される大きな営みの中に、時々、不思議な体験をさせてくれる側面があります。特別なサインを送って何を教えようとしているのでしょうか。それが何かを来シーズンまで、しばし黙考しようかと思えます。黙考の末、来年の活動に反映できる何か見つければ幸いです。(小原宏文)

諏訪市の雑木処理作業に参加してまいりました。

今回の作業場所は、昨年ほどの大径木は少ない場所であった反面、チェーンソーのほか、ナタ、ノコギリ、刈り払機等、多様な道具を必要とする場所でした。めいめいの分担、力量に合わせて、道具を選び、安全に配慮して作業をしてきました。



作業中、刈り払機を持っていた上諏訪青年団の友人と久々に話をする機会があったのですが、友人は「うちはまだ畑があるから草を刈る道具はまだある。今日は刈り払い機を持って参加をしました。」といっ

ておりました。

長い話ではできませんでしたが、遠い昔、霧ヶ峰まで草刈りに来ていた地元農家の末裔が、実は私の友人だったのには驚かされました。

今年の霧ヶ峰基金は、長野県自然保護レンジャーのみなさんとチームを組み、雑木処理作業を行いました。私たちのチームはカラマツを1本倒したところで、雨天のため、残念ながら作業は終了になりました。

しかし、各種団体の多い霧ヶ峰高原においては、作業を通じ交流できる点で、こうした機会はとてもメリットは大きいと感じました。

また、近年話題の自然エネルギーの活用、地球温暖化防止について考えるきっかけにもなる場所であり、自然エネルギー、温暖化について、めいめいの意見を交換しながらの作業でもありました。

「個々の作業体験、聞いた話の内容を深めて、ツアーでお話すればどうでしょうか」とご意見を頂きましたが全くその通りです。我々にとって、非常に糧となる作業でした。(小原宏文)

寄付金をお寄せいただきました。ありがとうございます。

2011年9月1日～10月31日 合計2,000円

心からのご支援、誠にありがとうございます。

エコツーリズムの普及啓発や保全事業などに役立てたいと思います。

活動記録(2011年9月1日～10月31日)

9月	17日	・モニタリング調査(植物相)
	18日	・モニタリング調査(水環境)
	23日	・会報2011年10・11月号 発行
10月	9日	・個人ツアー催行
	22日	・諏訪市霧ヶ峰高原草原再生事業 雑木処理作業 参加

「歩く」を楽しむ フィールドノートのススメ

お気に入りのトレイルを歩いていて、ふと思ったこと、いつものさんぽみちで出会ったもの...ちょっと気になったことや見かけた生き物を書きとめておくと、その場所の新たな魅力に気がついたり、季節や年ごとの変化をより楽しむことができます。

特別な道具は必要ありません。

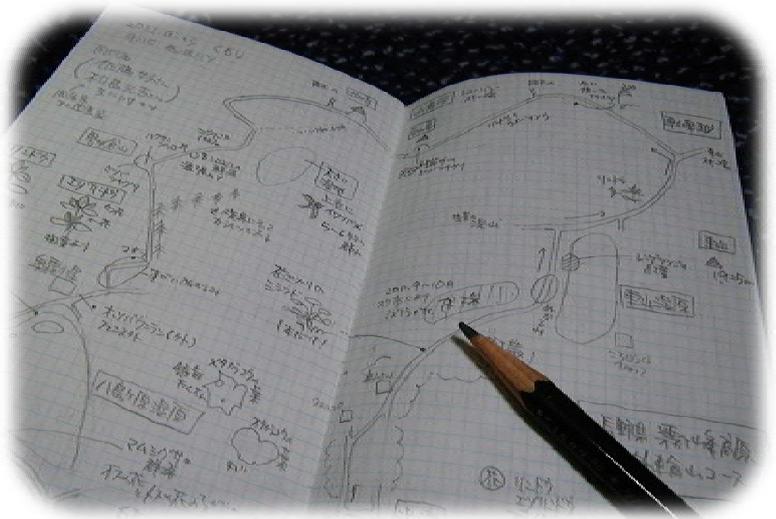
自分のお気に入りのノートと鉛筆&消しゴム。

これだけあれば、いつからでも始められます。

天気や気温を書きこんだり、ちょっとしたスケッチを取り入れたり...色を塗っても楽しいかもしれません。

コツは無理しないこと、そして書きたいときに作ること。

自分だけのすてきな一冊をお持ちになってみてはいかがでしょうか。



編集後記

晩秋のある日の夕方、お天気を見計らって車山肩へ行ってみました。

この季節は空気が澄んでお天気が安定し、赤く染まる空が観察しやすく夕焼けを楽しむのにぴったりなのです。

ゆっくり太陽が傾き、光の色がふっと変わり、風も温みをなくした冷たい風になる瞬間。

きりりとしたこの空気の向こうに、真っ赤な夕焼け空が広がります。

毎年この瞬間が味わいたくて、ついつい、足が向くのです。(か)



次号会報は2012年1月下旬ころ発行予定です。
都合により本会報の発行が遅れましたことをお詫び申し上げます。